

風水害に備えよう

今年も集中豪雨や台風などによる風水害の多い季節が近づいてきました。

梅雨の時期では、梅雨前線による大雨や長雨などにより、河川の氾濫や土砂災害が発生しやすくなります。

中でも短時間に狭い地域に集中して降る「集中豪雨」には特に注意が必要です。集中豪雨は突発的に降るので予測が困難であり、時に大きな被害をもたらすことがあります。

そのような風水害に対して日頃から備えておくことや、被害を未然に防ぐ知識などを紹介します。

少しでも危険を感じたら自主的に避難するようにしましょう。



雨量と水害

1時間に20ミリ以上の雨が降ると、地割れや地表が流されたり、ガケ崩れの危険が予想されます。



1時間雨量
5～15ミリ

・地面に水たまりができ、雨の降る音が聞こえる。



1時間雨量
15～20ミリ

・地面一面に水たまりができ、雨の音で話が聞きとれない。



1時間雨量
20～30ミリ

・いわゆる土砂降り状態で下水があふれる。



1時間雨量
30ミリ以上

・バケツをひっくり返したような雨が降る。

【備える】

●非常持ち出し品の確認

飲料水や食料、避難のために必要なもの（懐中電灯、ラジオ、衣類など）、個人ごとの必需品（持病の薬、生理用品など）。

●住まいの点検

- ・瓦やアンテナは固定されているか。
- ・雨どいが詰まっていないか。
- ・外壁に亀裂はないか。
- ・窓ガラスにひび割れ、がたつきはないか。



【知る】

●地域の状況を知る

お住まいの地域で過去に起こった災害などを知っておくことが大事です。

- ・危険なところ
- ・避難場所
- ・避難経路などの確認・点検
- ・落ち合う場所を決めておく

●気象情報など情報の入手

台風の接近時や雨が降り続いたりした時などは、テレビやラジオで気象情報を収集し、十分注意する。

※雨量などに関しては右図を参照ください。

【行動する】

●風水害時の避難の注意点

- ・動きやすく安全な服装で、足元は運動靴にする。
- ・道路などが浸水してしまったら側溝などが確認できないので、杖を持って足元を確認しながら歩く。
- ・単独では行動せず。家族や近所の人と行動する。

避難勧告などが出ていなくても危険を察知し、正しい情報に基づき早めの対応を心がけましょう。家族や地域で協力し合い、対応することが被害の抑制につながります。

住宅の耐震化は お済みですか？

黒潮町では、南海トラフの巨大地震による犠牲者をなくすため、木造住宅の耐震化を進めています。

地震の揺れで家屋が倒壊すると下敷きになってしまったり、避難ができなくなってしまうだけでなく、倒れた家屋が道路を塞いでしまう可能性もあります。

ぜひ、お住まいの耐震診断・改修をご検討いただき、南海トラフ地震に備えましょう。

このほかにも、避難路に面した危険なブロック塀などの撤去や家具の転倒を防止するための器具の購入・設置費の補助事業もあります。

それぞれの申し込みには、申請書と必要書類を提出してください。詳しくは、左記までお問い合わせください。



黒潮町の木造住宅耐震補助の流れ

まずは **耐震診断**

—お住まいを知ることから—



- 対 象：昭和56年以前に建てられた木造住宅
※構造によっては対象外となる場合があります
- 費 用：無料
- 概 要：建築士事務所協会を通じて登録診断士を派遣します

つぎに **耐震設計**

—お住まいの補強を考えましょう—



- 対 象：上記の耐震診断を終えたもののうち、評点1点未満のもの
- 補助額：最大30万円
- 概 要：登録設計者に耐震補強の設計をしてもらいましょう

さいごに **耐震工事**

—設計した内容で工事をする—



- 対 象：上記の設計を終えたもの
- 補助額：最大110万円
- 概 要：登録工務店など、または設計登録者と連携した工務店などに工事をしてもらいましょう

○お問い合わせ

【本庁】情報防災課 消防防災係

☎43-2188

【佐賀支所】地域住民課 総合窓口第1係

☎55-3113